

○かかりつけ医のための認知症Q&A

認知症に関して患者さんやご家族からよく聞かれること

認知症は治りますか

回答者 山田 正仁

認知症は症状であり原因は様々なので、認知症全般についていえば、『原因によって治るものもあれば治らないものもあります。原因になっている病気が根本的には治らないものであっても、問題となっている症状を軽減するための適切な方策を講じることができます』ということです。この質問に対する答えになると思います。表①に認知症の原因疾患を示します。その中では、①変性型認知症 a のアルツハイマー病ア

①認知症の原因となる疾患

①変性型認知症

- a. アルツハイマー病(アルツハイマー型認知症)
- b. 非アルツハイマー型変性型認知症(レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症(ピック病など)、嗜銀顆粒性認知症、神経原線維変化型老年認知症(辺縁系神経原線維変化認知症)ほか)

②脳血管性認知症

③その他の原因疾患

- a. 内科的疾患: ビタミンB₁欠乏症、甲状腺機能低下症、アルコール、神経梅毒、脳炎など
 - b. 脳外科的疾患: 慢性硬膜下血腫、正常圧水頭症など
-

ルツハイマー型認知症)と②の脳血管性認知症が多く、わが国では、従来は脳血管性認知症の方が多いとされていましたが、近年は、欧米と同様に、アルツハイマー病の方が優位になりました。それ以外には、①bの非アルツハイマー型変性型認知症、③その他、があります。

これらの中で、根本的な治療が可能という点から最も重要なのは③のその他に含まれる疾患群で、内科的疾患として、ビタミンB₁欠乏症、甲状腺機能低下症他の代謝・内分泌疾患、神経梅毒他の感染症などが、脳外科的疾患として慢性硬膜下血腫、正常圧水頭症などがあります。これらは適切なビタミンやホルモンの補充療法、感染症治療、脳外科手術などにより根本的な治療が可能であり、従来から『治療可能な認知症 (treatable dementia)』と呼ばれてきました。

脳血管性認知症は、原因となる脳血管障害の予防について降圧薬、抗血小板薬などの有効性に関する多数のエビデンスが集積されてきてい

②認知症の中核症状と周辺症状（JAAD スライドキットより引用）



ます。多発する脳梗塞や白質病変の結果生じてしまった神経精神症状に対する対症的な治療と共に、原因である脳血管障害の再発や進展を阻止する手立てを講じることが可能です。

アルツハイマー病を代表とする変性型認知症も、近年治療薬が使用可能になってきました。

その症状は中核症状である認知障害と、妄想、幻覚、徘徊などの周辺症状に大別されます(図

②)。アルツハイマー病の中核症状に対する治療薬(抗認知症薬)としてわが国で唯一認可されているドネペジルは認知症症状を有意に改善させ、症状の進行を遅らせることができます。

ドネペジルはアルツハイマー病の脳病変の進行は阻止し得ませんが、現在、アルツハイマー病脳に沈着するアミロイドに対する治療法(抗アミロイド療法)を中心に根本的治療法が活発に開発されています。また、精神症状や行動異常などの周辺症状に対する治療は重要で、必要に応じ適切な対症的な薬物療法や非薬物療法ある

いは生活面でのアプローチ(リハビリテーション、ケア面での対応など)を行うことによって、周辺症状を軽減、コントロールすることが可能です。

このように、認知症の治療や予後の予測にあたっては、認知症の原因疾患を正確かつ早期に診断すること、それに基づき、薬物療法や非薬物的なアプローチを含め適切な方針を立てていくことが大切です。

(金沢大学大学院医学系研究科 教授

脳老化・神経病態学)

